

# 平成 24 年度 (2) NBRP-情報-運営委員会 議事概要

開催日時: 2013 年 3 月 14 日(木)14:00~16:05

開催場所: 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 研究本館3階セミナー室 (A316)

出席者: 田畑(委員長)、荒木、小林、城石、鈴木、長村、成瀬、仁田坂、松沢、矢口、山崎 の各委員

欠席者: 川口、深海、増井 の各委員

オブザーバー: NBRP 佐藤事務局長、事務局員、国立遺伝学研究所 鈴木知的財産室長

事務局: 研究推進課副課長、研究推進チーム職員

## 【議 事】

### 報告事項

- (1)追加配分について

山崎委員から資料1、及び2に基づき、追加配分が決定した経緯及び内訳(遺伝研:804,1 千円/東大:1,000 千円)の説明があった。なお、遺伝研分としては、情報センターの公開サービス用のサーバマシンの増強を行った旨の報告があった。

- (2)第2期で終了したリソースの情報の取り扱いについて

山崎委員から資料2に基づき、NBRP 推進委員会(2.22)で議論していただいた旨の説明があり、情報を残すことについては問題ないが、維持経費は NBRP 以外の予算となることについて報告があった。なお、実際の web 画面について、山崎先生よりプロジェクトを使用して紹介が行われた。

- (3)平成 24年度の活動報告

課題1:リソースデータベースの整備

山崎委員から資料2に基づき、以下の報告があった。

- 既存 DB の継続安定運用
- 新規参加リソースの情報発信支援
- Web ページやデータベースの改良改善と総合化
- リソース機関との連携体制の強化
- 広報活動

なお委員から「リソースの抽出率(76.2%)」の内容について質問があり、抽出の方法も含め山崎委員より補足説明があった。また、データに統一 ID を付与して管理していくことについては、今後も議論が必要になるとの発言があった。

## 課題2:大型類人猿情報ネットワーク

松沢委員から資料3に基づき、GAIN の HP における公開状況の説明とあわせ、以下の活動報告があった。

- 飼育施設訪問と最新情報の追加・更新
- 各個体のゲノム・行動情報・形態情報の収集
- 個体群管理
- 大型類人猿情報提供と国際化
- 広報活動と成果公開

## 課題3:地球規模生物多様性情報機構の日本ノードの活動

山崎委員から資料2に基づき、以下の報告があった。

- ポータルサイトの運用と利用の拡大に向けた改良改善
- 標本・観察データの電子化・データベース構築・GBIF 登録
- S-net(科博の日本語版標本・観察データベース)と GBIF 日本ノードの検索サイト(東大・遺伝研の英語標本・観察データベース)の統合化の推進
- 実務担当者によるワーキンググループの立ち上げ等、緊密な連携及びパンフレットの作成について
- 国際 GBIF のニュースレターの和訳公開及び日本ノードポータルサイトの英語版の作成について

- 情報発信(学会、シンポジウムの出席状況)
- ノード委員会の開催
- ポータルサイトのアクセス集計

#### 課題4:NBRP 事務局の活動

佐藤 NBRP 事務局長から資料4に基づき、平成 24 年度の関連委員会等、主要行事、リソース運営委員会への出席状況、各広報活動の報告があった。また、ネットイツメガエル、研究用ヒト臍帯血幹細胞、ゾウリムシ、ニワトリ・ウズラ、ミヤコグサ・ダイズの Site Visit 実施状況について報告があった。

鈴木遺伝研知的財産室長から資料5に基づき、生物多様性条約-名古屋議定書の採択に伴う遺伝資源の取得と利益配分(ABS)に対する対応の構築について、平成 24 年度より NBRP 事務局の一部として活動することになった背景、及び ABS 学術対策チーム(対応窓口)のミッションの説明があった。また、以下の活動内容及び今後の計画について報告があった。

- 大学研究者に向けた遺伝資源の取扱いに関する啓発活動
- 遺伝資源の取扱いに関する要望意見収集と情報発信
- 遺伝資源の取扱いに関する相談窓口を東京 NBRP 連絡所内に設置
- 情報収集分析、研究会による討論、関連会議への参加

### 審議事項

#### (1)平成 25 年度の活動計画

##### 課題1:リソースデータベースの整備

山崎委員から資料6に基づき、第3期2年目としての実施計画・体制について説明があり、了承された。

- サーバマシン及びデータベースの安全で安定的な維持・管理
- DB ワーキングの活動を通じ、利用者ニーズの把握と利用促進に向けた具体的改良・改善
- 総合的データベースへの発展

- リソースとリサーチの好循環システムの実現
- 研究会の継続的な開催、ネットワーク強化によりデータベース全体の質的向上を図る

なお、DB 研究会については、全リソースの研究者が集うことができる良い機会であるので、特に新規リソースの方や過去に参加できなかったリソースの方にも積極的に参加いただけるとよいのではないかと、この議論があった。

## 課題2: 大型類人猿情報ネットワーク

松沢委員から資料3に基づき、以下の活動計画について説明があり了承された。

6. 現行ウェブサイト及び個体データベースにおける最新情報の追加・更新
7. 各個体のゲノム・行動情報・形態情報の収集
8. 個体情報の拡充と個体群管理
9. 情報提供の国際化の推進

## 課題3: 地球規模生物多様性情報機構の日本ノードの活動

山崎委員から資料6に基づき、以下の実施計画・体制について以下の説明があり、了承された。なお、国立科学博物館における分担機関代表者が細矢委員に交代となり、また細矢委員については GBIF の代表も兼務いただき、今後活動の中心を国立科学博物館へ移行していく旨の報告があった。

- 国内メタデータベースの構築及び、国内データの GBIF への発信の組織的促進
- GBIF 日本ノードの継続した安定運用
- 生物多様性情報の品質向上とコミュニティ醸成、関連講習会、シンポジウムの開催
- ノード運営委員会及び内部に実質的な作業を担うワーキンググループを組織し、活動の活発化を図る。

## 課題4: NBRP 事務局の活動

佐藤局長から資料7に基づき以下の目標及び計画について説明があり、了承された。

- NBRP 事務局のミッション
- 実施計画(関係会議の関係実務、広報・普及に関する業務、プロジェクト推進のための支援業務)
- 学会展示会予定(7件)

なお委員から、現時点の業務に負担のない形で一般向けの広報活動があっても良いのではとの発言があり、NBRP 事務局長から今後検討したいとの発言があった。また分子生物学会展示については、発表場所の選定に工夫が欲しいこと、また同テーマが継続しているので、今後更なる発展があっても良いのではとの意見があった。

## (2) その他

山崎委員から、各コミュニティの先生から意見が聞こえるようであれば、積極的に情報提供して欲しいとの発言があった。  
最後に委員長から謝辞が述べられ閉会した。